



# 高松医療センター

# Medical News

私達は、患者さんとそのご家族の立場に立った医療の推進に努めます

## 新年のご挨拶

2024年初春のお慶びを申し上げます。

今年はいうるう年、丁度4年前の2月に緊急事態宣言が出され、4年に1度のオリンピックも延期され、これから数年は新たな感染症との戦いが続くだろうと覚悟を決めた事を思い出します。

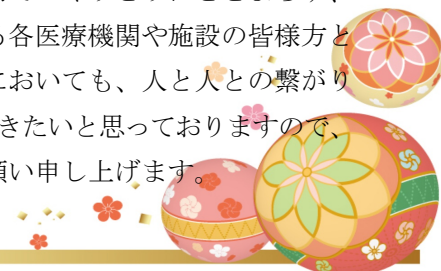
昨年当院は、稼働開始してから8年を迎えた電子カルテを更新いたしました。三つのS (Medical-Safety/Information-Sharing/Simple) をコンセプトとして、2015年12月に導入した当院の電子カルテは、説明同意書等の重要書類をタイムリーにスキャンし、電子署名とタイムスタンプで原本性を確保することで完全ペーパーレスを実現しました。これにより各職種や部門間の情報共有が行いやすくなり、作業効率だけでなく医療安全という点においても、より高い水準に持って行けたと思います。現在当院は150名以上の入院患者を、内科系診療科の常勤医師とシニア医師合わせて10名ほどで受け持っており、少ない医師数で多くの患者さんの診療を行っている当院にとって、このような電子カルテシステムは、今やなくてはならないツールとなっています。また常勤医が内科系医師のみの当院は、香川大学などからの多くの非常勤医師派遣によって、専門外の診療分野をカバーして頂きながらの運営形態となっており、スムーズなコミュニケーションを実現するという点においても、このシステムに頼っているところが大きいと言えます。

さて昨今の大きな話題として、AI技術の進歩があげられます。生成AIの登場は、世の中が大きく変わろうとしていることを実感させられる出来事です。今後医

療の分野にもAI技術が次々と導入され、これまで人間のおこなっていた仕事や作業が徐々にAIにとって代られるようになって行けば、10年後には医療の現場が様変

わりしている可能性もあります。一方でデジタル技術の革新は、情報伝達と共に様々なコミュニケーションツールとして活用され、当院に多く入院されている神経筋疾患の患者さんなど、障害のある方々のサポートにも応用されていくであろうという期待も持たせてくれます。いずれにしてもデジタル技術が進歩して行けば行くほど、人と人における直接のコミュニケーションは、より一層大切になると思っています。

当院は令和5年度病院目標の合言葉を「磨くコミュニケーション力、高める病院力」と題して新年度をスタートしました。デジタルからアナログまで様々なツールを介してのやりとりはもとより、それ以上に職員同士のコミュニケーション力を磨く事が病院を支える力となり、病院の実力を高める事に繋がってほしいと思っています。そして病院内でのやりとりにとどまらず、日頃お世話になっている各医療機関や施設の皆様方とのコミュニケーションにおいても、人と人との繋がりをより一層大切にしていきたいと思っておりますので、本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



# 新年のご挨拶



副院長 市原 典子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は大変お世話になり有難うございました。本年も、よろしくお願い申し上げます。

当院には特殊な機能を有する4つの病棟があり、入院期間やDPC制度にとらわれない医療が可能なことで他の病院では対応が難しい入院が可能です。例えば、治療後の回復に時間を要する高齢者や障がい者の退院支援はもちろんのこと、介護者を支えるためのレスパイト入院や短期入所、安心・安楽な在宅療養の維持をサポートする在宅サポート入院（後述）もおこなっています。また、回復期のリハビリテーションだけでなく、年齢や障がいの程度に合わせた慢性期機能維持のためのリハビリテーション入院も可能です。長期入院では、慢

性疾患の進行期や癌患者さんの苦痛を緩和しQOLの維持・向上に配慮したケアを提供します。また重度の身体障害をきたし、かつ気管切開や人工呼吸管理など高度な医療的ケアが必要な患者さんについては、医療の質を下げることなく介護も合わせて提供することが可能です。ただし入院できる患者さんの病名や身体障害の程度には制限がありますので、地域医療連携室にご相談ください。

診療科も少なく救急医療を苦手とする当院ですが、特殊性の高い病床を上手く利用していただければ必ずや皆様のお役に立てると思います。今後も当院の強みに、より磨きをかけることに力を注ぎたいと思いますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりありがとうございました。統括診療部長(呼吸器内科)、感染対策室長としてご挨拶申し上げます。

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、世間一般には新型コロナウイルス感染症は過去のものであるとの考えが広がってきているように思います。しかし、医療関係者としてはまだまだ注意を要する感染症であることに違いはなく、そこにギャップが生まれているようです。また、インフルエンザその他の感染症も流行しており、気を抜けない状況となっています。本年も同様の状況がしばらく続くのではないかと考えています。

統括診療部長 東條 泰典

当院における新たな動きとしては、結核病床20床の一部をモデル病床に転換する予定です。結核はご存じのように減少傾向が続いており、当院の結核病床も空床が目立つようになってきました。そこで結核病床のうち8床をモデル病床化し、結核入院患者が少ない時は一般患者を受け入れできるようにします。

本年も呼吸器疾患診療体制については、結核・抗酸菌感染症診療と呼吸器一般診療の両輪で行っており、結核病床の一部をモデル病床化しても、結核・抗酸菌感染症診療は従来通り香川県の最終拠点病院として皆様のご期待に沿えるよう努力する所存です。また、呼吸器一般患者についても慢性期を中心とした診療を行って参りますので、引き続きよろしくお願いいたします。

新年あけましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり厚く御礼申し上げます。

赴任2年目を迎えた今年は看護の専門性について見つめ直す1年となりました。セーフティーネットを中心とした医療と高齢化社会の到来に対応できる医療を柱としている当院で、看護師の専門職としての役割を發揮するためにどうすればよいかと考えてきました。医師の働き方改革が進められる中、タスクシフト/シェアが求められ、各職種がどのように協力・分担・連携すれば安心安全な医療が提供できるかという視点を持ち今後も検討を進めていきたいと思っています。具体的に

看護部長 森川 真美

は、看護師が患者の状態やその変化に応じて判断・対応できるよう、認定看護師、特定行為研修修了者の育成を行い、また看護師が専門性を要する業務に専念できるよう看護補助者との業務分担、教育を推進してまいりたいと考えています。

当院には4名の認定看護師、1名の特定行為研修修了者が在籍しております。地域のリソースとして、研修や講義などにも活用していただけるよう研鑽を続けてまいりたいと思いますので、ご要望がございましたら看護部までお問い合わせいただければと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

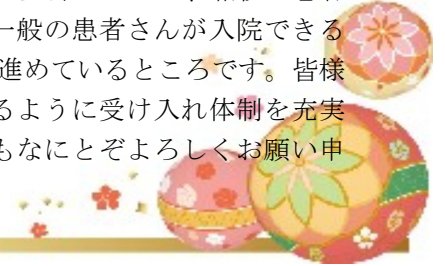
明けましておめでとうございます。

今年は診療報酬などのトリプル改定が予定されています。診療報酬は2年に1度、介護報酬及び障害福祉サービス等報酬は3年に1度の改定が行われますが、今年には診療報酬・介護報酬・障害福祉サービス等報酬が同時に改定される6年に1度の年にあたります。物価高騰など費用増の反映や、当院が対応すべき項目について、どのような内容が具体的に示されるか、中医協などでの議論が気になります。

また、第8次医療計画が始まるとともに、2025年の病床の機能分化・連携の実現に向けて取り組まれて

きた地域医療構想が最終の年を迎えます。今後の医療提供体制改革等に向け、働き方改革や医療DXなどへの対応も重要ですが、地域の医療機関や施設との協力・連携の強化がこれまで以上に求められるのではないかと考えています。

当院では結核病床のうち8床について、結核の患者さんが少ないときには一般の患者さんが入院できるよう、4月に向け準備を進めているところです。皆様のご要望にお応えできるように受け入れ体制を充実してまいります。本年もなにとぞよろしくお願い申し上げます。



## 地域連携 TOPICS

### アドバンス・ケア・プランニングについて

アドバンス・ケア・プランニング（以下、ACP）とは、病気の進行などで自分の考えを伝えられなくなった場合に備えて、望む医療やケアについて、前もって患者さんを主体に、ご家族及び医療従事者が繰り返し話し合い、意思決定を支援するプロセスです。

高松医療センターでは、歴史的に進行期の神経難病患者さんの治療方針の決定に際して、医師のみでなく医療、介護、福祉の専門チームが加わりサポートを行ってききましたが、今後は初期の神経難病患者さんや他の慢性疾患患者さんにも対象を広げ行う予定です。最後まで自分らしく生きることができるよう、患者さんの病状に加えて価値観、療養環境、介護者や金銭的なことまで様々な問題を考慮して、患者さん、ご家族と

多職種のチームでカンファレンスを繰り返し行います。患者さんの思いが変わるような場合には、その都度何度でも話し合いを行います。

また、患者さんにACPを理解してもらうために「アドバンス・ケア・プランニングの手引き」を作成しています。手引きでは、質問の回答を選択肢の中から選んでいくことで自分の考えを整理できるように作成しています。患者さんの病気の進行によって医療やケア、暮らしの場は変化していきます。患者さんにとって最善の医療やケアを望む場で望む形で受けられるよう、地域で患者さんを支える皆様のチームに当院も加えていただけるよう努めてまいります。

### 在宅サポート入院について

当院の在宅サポート入院は当初多系統萎縮症の患者さんを対象とし2022年秋頃から開始致しましたが、現在はその有用性を鑑みその他の疾患の患者さんにも対象を広げて運用しています。

これまでの約1年間で県内全域の医療機関から16名の患者さんをご紹介いただきました。入院期間は2週間から4週間程度としており、身体機能や嚥下機能、呼吸機能などの評価をおこないます。入院中は医師をはじめとした多職種がチームで評価や指導に携わっ

ています。また入院中の評価を元にACPについても十分に時間を設けておこなっています。これらの内容を共有し、できるだけ長く安心して在宅療養を続けていただくために、退院前には在宅関係者と共にカンファレンスを開催しています。

貴院の患者さんにこの在宅サポート入院をご利用いただくことで、患者さんやそのご家族、また在宅療養を支える関係者の皆様に、きっとお役に立てることと思います。



詳しくは当院のホームページにも掲載していますのでご覧ください。



高松医療センターの『ACP』についてはこちらから



高松医療センターの『在宅サポート入院』はこちらから





# 外来診療担当一覧表

診療受付：8：30～11：30

診療時間：8：45～17：15

令和6年1月1日現在

診療科		月	火	水	木	金
内科	午前	大森 実	糖尿病 細川 等	糖尿病・禁煙外来 細川 等	糖尿病 細川 等 内科 山野 智子	
	午後	山野 智子	糖尿病 細川 等			
神経内科	午前		市原 典子	第1・3週 鎌田 正紀 第2・4週 渋谷 佳子		小児神経内科 第1・3週 多田羅 勝義
	午後	国土 曜平				小児神経内科 第1・3週 多田羅 勝義
呼吸器内科	午前	東條 泰典	田所 明	二見 仁康		田所 明
	午後			東條 泰典		
消化器内科	午後			松木 美知子		
循環器内科	午前			辻 哲平		ペースメーカー外来 (隔週)宮井 翔平 (隔週)守家 聖二
	午後		水重 克文			第2・4週 水重 克文
整形外科	午前	濱崎 寛	藤木 敬晃			
	午後				濱崎 寛	
泌尿器科	午後				加藤 琢磨	
皮膚科	午後	第1・3・5週 山村 健太郎 第2・4週 田中 久夢				
歯科	午後		十河 京子			十河 京子

※外来診察は予約制を基本としています。診察予約につきましては地域医療連携室へお問い合わせ下さい。

## アクセス

〒761-0193

高松市新田町乙8番地

地域医療連携室

TEL：087-841-2162

FAX：087-841-2178

## お車をご利用の方

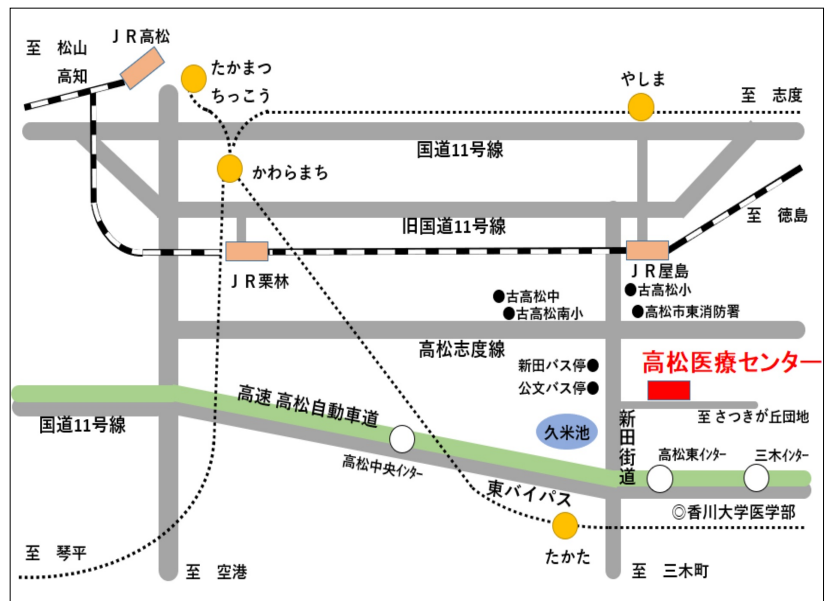
J R屋島駅西側(馬場先)から南へ延びる新田街道の途中、信号機のある三叉路を東に上がった丘陵地にあります。駐車場は無料。

## バスをご利用の方

ことでんバス『大学病院線』乗車

(起点：高松駅 終点：ことでん高田駅)

『高松医療センター』下車



独立行政法人 国立病院機構

高松医療センター

NATIONAL HOSPITAL ORGANIZATION TAKAMATSU MEDICAL CENTER

発行責任者：院長 細川 等

編集責任者：統括診療部長 東條 泰典

こちらのQRコードから当院の  
ホームページをご覧ください→

